銀漢亭日録

伊藤伊那男

2月9日（木） ▼店、女性だけの句会。対馬、うさぎ、敦子、いづみ、展枝、淳子さん。来店の男性俳人、洋酔さんなども飛び入り参加。

10日（金） ▼店、二十二時近くまで閑散。「俳壇」の新年会あとの、玲奈、史子、敦子、環、筑紫磐井、松尾隆信、真砂年、鳥居真里子、しなだしん、小石……十五、六名。発行所は最終校正と編集会議。終って六人店へ。

11日（土） ▼十時、発行所、運営委員会。十三時より、「銀漢本部句会」四十九人。「さくら水産」にて親睦会十六人。

12日（日） ▼高幡不動尊にて「春耕新年俳句大会」。十時、盤水先生の墓に詣でる。〈先生にまみゆ四温の日なりけり〉大会のあと祝宴。大締めの挨拶す。下北の畑中とほるさんと久々話す。あといつもの蕎麦の増田屋にて二次会。帰路、富士見丘、ヴィノテークにてワイン少々。

13日（月） ▼毎日、血圧を計っているが朝一七〇から一八〇、下は一〇〇前後が続くので医者再訪。先生が計ると一四〇から八〇位で、「おっ、よくなってきていますね」と。薬を飲む覚悟で来たので意外。「忙しかったり、ストレスがあったりしますか？」「俳句の選句や添削で忙しいです」「辛いですか？」「いえ、楽しくやっています」「うーむ、やはり酒ですね」。店閑散。血圧が上がりそう。

14日（火） ▼冷たい雨。店、伊那北高校関東同窓会誌編集部北沢根橋さん他。「火の会」。

15日（水） ▼山崎祐子さん共著出版した『日本の年中行事事典』（吉川弘文堂）持ってきてくれる。群馬の踏青子さん。あと閑散。二十二時、閉めて、いづみ、展枝、淳子さんと餃子屋。帰路、富士見丘駅にて地元の工藤さんとばったり会いヴィノテークへ。話をすると工藤さんのおじさんが三橋敏雄。夫人のおじさんが波多野憲という俳優で、その夫人が鈴木真砂女の娘の山本かく子さん（文学座）という縁。会社では少し先輩に摂津幸彦がいたと。俳句やるしかないでしょう！　口説く。

16日（木） ▼阪西敦子さん誕生会。十六人。金・正・日入れた五句出し句会。〈敦子婆センターを取る日向ぼこ〉

17日（金） ▼「平成俳壇」の選に入る。発行所「野村句会」。終って五人店。「月の匣」水内慶太さん山形の寒風干の鮭一本持って来店。食べる。雪。

18日（土） ▼「平成俳壇」選句その他。昼寝。夕方、吉祥寺に出て、牡蠣料理などで酒。休養日。

19日（日） ▼十時から整体。一時間半みっちり。拷問に近い治療。効く。十六時、成城・桃子の家。杏一家も来て、からすみ、スキヤキの夕食会。

20日（月） ▼「平成俳壇」選句終える。やや風邪気味にて葛根湯を飲む。食材は春――。今週の店は、独活のきんぴら、菜の花と烏賊の辛子醤油和など。ただし客極めて少なく、二十時半には閉める。――しょぼん。

21日（火） ▼暖かな朝。四月号の添削教室、銀漢エッセー書く。店閑散。「豈」主宰・筑紫磐井、「万緑」選者・横澤放川、対馬康子さん、「俳壇」座談会のあと寄ってくれる。発行所は経理の帳簿合せを眞理子、松山、禪次さん。二十二時半閉める。

22日（水） ▼四月号の星雲集評、盤水の一句、書く。発行所、三月号発送作業。夜、発行所、着物の着付教室。淳子先生と、生徒はうさぎ、操、いづみ。店、水内慶太さん一派。あと敦子、肖子さん他計七名の俳人。などなど。終って餃子屋に行くと帰った筈の皆さん十人程が飲んでいる。何と何と。

23日（木） ▼四月号同人評書く。兄夫婦来店。展枝さん伊勢丹の若者達と八人。「天為」の方々。

24日（金） ▼やや風邪気味。発行所「金星句会」終って六人。やや淋しい客入り。

25日（土） ▼彗星集評書いて四月号原稿全部終了。十四時、日本橋「纏句会」十五人。終って生牡蠣、鰆焼などで「十四代」。あと握り。五時過の長野新幹線に乗り一眠り。軽井沢は雪。ピレネーというレストランに家族待合せ。生牡蠣、ステーキなど。ハーベストクラブ泊。零時過まで歓談。

26日（日） ▼風呂ゆっくり。アウトレットに寄り、PUMAの靴仕事用に二足。翠楼にて昼食というか宴会。紹興酒。十七時帰宅。「雲の峰・春耕合同俳句大会」選句。

27日（月） ▼風強し。週末に予定している皆川丈人さんとの盤水先生の思い出についての座談会の資料作る。「湯島句会」。四十人集まる。

28日（火） ▼「春耕」同人で佐野在住の島田ヤスさんより、郷土料理しもつかれ大量に到来。大好物なり。大学茶道会の一年先輩三人。広渡敬雄さん仕事仲間四人。チェロ奏者の甥など。

29日（水） ▼雪降り続く。積る。何だか休養日の気分。ゆっくり風呂。マッサージ機、昼寝、作句など。店「読む会」真砂年、一平、うさぎ、麒麟、西原天気、岩渕喜代子さん、後藤夜半の句について。全体淋しく、二十二時看板入れる。

3月1日（木） ▼二月の月次収支まとめ。マッサージ機で一眠り。仕事仲間であった藤井公認会計士、「未来図」の守屋編集長など。閑散。二十二時半閉める。

2日（金） ▼冷たい雨。俳句、雑用処理、マッサージ機で昼寝。萩原一夫君より手術後の大量出血、脳梗塞などについての厳しい便り到来。唸る。発行所、清人さん「大倉句会」。終って十人店。寝過ごして桜上水。

3日（土） ▼快晴。朝の連続テレビ小説「カーネーション」尾野真千子今日まで。十時より発行所にて運営委員会。「いもや」の海老天の昼食。喫茶店にて作句。十三時よりひまわり館、「本部句会」四十七人。十八時、当方、武田編集長、洋酔さんと私、相手、皆川盤水先生の御長男丈人さん、甥の文弘さんの五人、京王プラザホテルの韓国料理「五穀亭」春香の間にて座談会。父親、伯父としての盤水先生をお二人に語ってもらう。

4日（日） ▼九時から整体。九十分間ほぼ拷問。散髪、買物。十三時、中野サンプラザ「春耕同人句会」あと「華の舞」、最近復帰された竹内岳さんと話。三十年前の初学の頃の縁。帰路、ヴィノテークで牡蠣グラタンとワイン。

5日（月） ▼寒い雨。五月号用銀漢エッセイ書く。選句に入る。うたた寝。早めに店に入り仕込。朝妻力さん来京につき、秋葉男さんの呼び掛けで十数名集まる。発行所は勉強会。西東三鬼と。終って十三人店へ。水内慶太さん一派。結局賑やかなれど俳人以外一人もいないという一日。終日雨。

6日（火） ▼一転して暖か。発行所「十六夜句会」。終って六人。俳人協会総会あと、けい吾、満、洋酔、中村与謝男（幡）、宮田勝（萌）、平石和美（幡）、真砂年、対馬さん他。終って餃子屋八人。

7日（水） ▼発行所「ささらぎ句会」。終って八人。二十二時半閉めて、志峯、展枝、いづみ、徳永さんで餃子屋。

8日（木） ▼結婚記念日。三十七年前のことになる。店、毎日新聞の鈴木啄磨さん一派。「天為」の方々。あと閑散。夜雨。